

Arcserve® Backup for Windows

リリース サマリ

r16.5 SP1

arcserve®

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント（以下「本書」）はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserveにより随時、変更または撤回されることがあります。

Arcserveの事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書はArcserveが知的財産権を有する機密情報であり、ユーザは(i)本書に関連するArcserveソフトウェアの使用について、Arcserveとユーザとの間で別途締結される契約により許可された以外の目的、または(ii)ユーザとArcserveとの間で別途締結された守秘義務により許可された以外の目的で本書を開示したり、本書を使用することはできません。

上記にかかわらず、本書で取り上げているソフトウェア製品（複数の場合あり）のライセンスを受けたユーザは、そのソフトウェアに関して社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成できます。ただしArcserveのすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザはArcserveに本書の全部または一部を複製したコピーをArcserveに返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、ARCserveは本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、ARCserveはお客様または第三者に対し責任を負いません。ARCserveがかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者はArcserveです。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 Arcserve (USA), LLC and its affiliates and subsidiaries. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴはそれぞれの所有者の商標またはサービスマークです。

Arcserve 製品リファレンス

このマニュアルが参照している製品は以下のとおりです。

- BrightStor® Enterprise Backup
- CA Antivirus
- Arcserve® Assured Recovery™
- Arcserve® Backup Agent for Advantage™ Ingres®
- Arcserve® Backup Agent for Novell Open Enterprise Server for Linux
- Arcserve® Backup Agent for Open Files on Windows
- Arcserve® Backup Client Agent for FreeBSD
- Arcserve® Backup Client Agent for Linux
- Arcserve® Backup Client Agent for Mainframe Linux
- Arcserve® Backup Client Agent for UNIX
- Arcserve® Backup Client Agent for Windows
- Arcserve® Backup Enterprise Option for AS/400
- Arcserve® Backup Enterprise Option for Open VMS
- Arcserve® Backup for Linux Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- Arcserve® Backup for Microsoft Windows Essential Business Server
- Arcserve® Backup for UNIX Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- Arcserve® Backup for Windows
- Arcserve® Backup for Windows Agent for IBM Informix
- Arcserve® Backup for Windows Agent for Lotus Domino
- Arcserve® Backup for Windows Agent for Microsoft Exchange Server
- Arcserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SharePoint Server
- Arcserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SQL Server
- Arcserve® Backup for Windows Agent for Oracle
- Arcserve® Backup for Windows Agent for Sybase
- Arcserve® Backup for Windows Agent for Virtual Machines

- Arcserve® Backup for Windows Disaster Recovery Option
- Arcserve® Backup for Windows Enterprise Module
- Arcserve® Backup for Windows Enterprise Option for IBM 3494
- Arcserve® Backup for Windows Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- Arcserve® Backup for Windows Enterprise Option for StorageTek ACSLS
- Arcserve® Backup for Windows Image Option
- Arcserve® Backup for Windows Microsoft Volume Shadow Copy Service
- Arcserve® Backup for Windows NDMP NAS Option
- Arcserve® Backup for Windows Storage Area Network (SAN) Option
- Arcserve® Backup for Windows Tape Library Option
- Arcserve® Backup Patch Manager
- Arcserve® Backup UNIX and Linux Data Mover
- Arcserve® Central Host-Based VM Backup
- Arcserve® Central Protection Manager
- Arcserve® Central Reporting
- Arcserve® Central Virtual Standby
- Arcserve® D2D
- Arcserve® D2D On Demand
- Arcserve® High Availability
- Arcserve® Replication
- CA VM:Tape for z/VM
- CA 1® Tape Management
- Common Services™
- eTrust® Firewall
- Unicenter® Network and Systems Management
- Unicenter® Software Delivery
- Unicenter® VM:Operator®

Arcserve へのお問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソースを提供します。重要な製品情報に簡単にアクセスできます。

<https://www.arcserve.com/support>

Arcserve サポート内容

- 弊社の Arcserve サポート 専門家が社内で共有している情報ライブラリと同じものに直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジベース (KB) ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、実地試験済みのソリューションを見つけることができます。
- 弊社のライブチャットリンクを使用して、Arcserve サポート チームとすぐにリアルタイムで会話を始めることができます。ライブチャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバル ユーザ コミュニティでは、質疑応答、ヒントの共有、ベストプラクティスに関する議論、他のユーザとの対話に参加できます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。

また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

製品ドキュメントに関するフィードバックの提供

Arcserve 製品ドキュメントに関してコメントまたは質問がある場合は、[ご連絡](#)ください。

目次

第 1 章: r16.5 の新機能、操作性および強化機能	9
r16.5	9
r16.5 の機能	9
r16.5 の拡張機能	12
r16.5 Update 2	18
r16.5 Update 2 の機能	19
r16.5 Update 2 の拡張機能	20
r16.5 Update 3	20
r16.5 Update 3 の機能	21
r16.5 SP1	23
r16.5 SP1 の機能	23
r16.5 SP1 の拡張機能	24
r16.5 SP1 の更新	24
セキュア ブート対応システムの惨事復旧に対するサポート	25
Arcserve UDP Update 2 との Arcserve Backup の統合	26
Linux Client Agent に対する RHEL7 および SELinux のサポート	28
Hyper-V 用のゲスト クラスタ CSV サポート	31
EMC Isilon NAS デバイスのサポート	31
Windows 版 Oracle 12c のサポート	32
第 2 章: r16.5 でサポートされない機能	33
廃止されたシステムおよびプラットフォームのサポート	33
VMware Consolidated Backup (VCB) のサポートの停止	33
WinPE 惨事復旧イメージ	34
r16.5 SP1 : eTrust Threat Management Agent 8.1 のサポートの廃止	34

第 1 章: r16.5 の新機能、操作性および強化機能

このセクションでは、Arcserve Backup r16.5 リリースの新機能、操作性、および強化機能について説明します（サービスパックおよび更新を含む）。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[r16.5](#) (P. 9)

[r16.5 Update 2](#) (P. 18)

[r16.5 Update 3](#) (P. 20)

[r16.5 SP1](#) (P. 23)

[r16.5 SP1 の更新](#) (P. 24)

r16.5

以下のセクションでは、r16.5 リリースに追加された新機能および強化機能について説明します。

r16.5 の機能

以下のセクションでは、r16.5 リリースに追加された新機能について説明します。

Microsoft Windows 8 オペレーティング システムおよび Microsoft Windows Server 2012 のサポート

このリリースで、Arcserve Backup は、Microsoft Windows 8 および Microsoft Windows Server 2012 の以下の機能をサポートします。

- 記憶域
- 分散 VSS
- NTFS データ デデュープリケーション
- VHDX (VHD の新しいバージョンは、より大きな記憶容量として 64 TB を提供します)
- 4 KB の論理セクタ サイズ
- ReFS (Resilient File System)

Windows オペレーティング システムに対する Agent for Microsoft Exchange Server 2013 のサポート

このリリースの Arcserve Backup Agent for Microsoft Exchange Server 2013 では、以下の Windows オペレーティング システムのサポートが追加されました。

- Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard Edition SP1
- Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition SP1
- Microsoft Windows Server 2008 R2 Datacenter Edition、RTM 以降のリリース
- Microsoft Windows Server 2012 Standard Edition
- Microsoft Windows Server 2012 Datacenter Edition

Windows オペレーティング システムに対する Agent for Microsoft SharePoint Server 2013 のサポート

このリリースの Arcserve Backup Agent for Microsoft SharePoint Server 2013 では、以下の Windows オペレーティング システムのサポートが追加されました。

- Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard Edition SP1 (x64)
- Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition SP1 (x64)
- Microsoft Windows Server 2008 R2 Datacenter Edition SP1 (x64)
- Microsoft Windows Server 2012 Standard Edition (x64)
- Microsoft Windows Server 2012 Datacenter Edition (x64)

LTO6 およびエンド ツー エンドの論理ブロック保護のサポート

このリリースの Arcserve Backup では、LTO6 ドライブへのデータのバックアップがサポートされるようになりました。LTO6 ドライブは、LTO5 などの以前のドライブと比べ、容量が増え、パフォーマンスも向上しています。

Arcserve Backup はまた、IBM および HP など、スタンドアロンのテープドライブの製造元によって提供される論理ブロック保護 (LBP) の機能 (LTO6 がサポートする機能) をサポートします。LBP によって、Arcserve Backup は、ライブラリ ドライブ上で発生する読み取り/書き込みエラーを検出できます。

Arcserve Backup での LBP の実装では、以下のバックアップはサポートされません。

- 読み取り操作での LBP
- ARCserve Tape RAID のバックアップ
- NAS (ネットワーク接続ストレージ) のバックアップ
- Arcserve Backup UNIX/Linux Data Mover のバックアップ
- ファイル システム デバイスのバックアップ

例：データ デデュプリケーションとステージングのバックアップ

r16.5 の拡張機能

以下のセクションでは、r16.5 リリースに実装された拡張機能について説明します。

NAS ポート設定

NAS（ネットワーク接続ストレージ）デバイスが、特定のポートまたは一連のポートを使用して通信するよう設定できるようになりました。カスタムポートを定義するには、PortsConfig.cfg 環境設定ファイルを手動で変更します。

Amazon S3 クラウド ストレージへのデータのアーカイブ

このリリースの Arcserve Backup では、データをアーカイブできる Amazon S3 クラウドストレージの地域がさらに 3 つ追加されました。

- US West（オレゴン）
- US West（カリフォルニア北部）
- AP 東京

現在は、バケットの地域として、AP シンガポール、EU アイルランド、米国標準、SA 東部（サンパウロ）があります。

Eucalyptus プライベート クラウド ストレージへのデータのアーカイブ

Arcserve Backup のこのリリースでは、バージョン 2.0 および 2.0.2 に加えて、以下の Eucalyptus のバージョンをサポートします。

- Eucalyptus 3.0
- Eucalyptus 3.1、3.1.1、および 3.1.2
- Eucalyptus 3.2

クラウド ベンダ プロバイダのサポート

このリリースで、Arcserve Backup ベース製品は以下のクラウドプロバイダをサポートします。

- FGCP/A5（Microsoft Windows Azure による富士通グローバルクラウドプラットフォーム サービス）
- Microsoft Windows Azure

VMware VDDK 5.1 のサポート

このリリースで、VMware VDDK 5.1 は、Arcserve Backup と共に自動的にインストールされます。VDDK 5.1 を使用して仮想マシンをバックアップできます。

その他利便性の向上と拡張機能

Arcserve Backup の本リリースでは、そのほかにも以下の利便性および拡張機能が提供されます。

アクティビティ ログ廃棄のカスタマイズ

- Arcserve Backup の拡張により、繰り返しジョブとローテーションジョブに関するすべてのジョブ ログを保持できるようになりました。以下のレジストリで、キーワード `DoNotPruneRecentJobLogs` を作成し（1として定義）、動作をカスタマイズします。

x86 オペレーティング システムの場合

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ArcServe  
Backup\Base\Database
```

x64 オペレーティング システムの場合

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWAREWow6432Node\ComputerAssociates\CA ArcServe  
Backup\Base\Database
```

CARUNJOB.exe でのジョブ番号/ジョブ ID の表示

- Arcserve Backup の拡張により、Windows タスク マネージャおよび Windows コマンドラインでジョブ ID を表示できるようになりました。この機能は、タスク マネージャまたはコマンドラインを使用してジョブ キュー内の特定のジョブを特定する必要がある場合に使用します。この動作を有効にするには、以下のレジストリ キーで、キーワード `regdword JobEngineGetJobID`、`JobEngineRenameApp`、またはその両方を作成します。

x86 オペレーティング システムの場合

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ARCserve Backup\Base\Task\Common
```

x64 オペレーティング システムの場合

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\ComputerAssociates\CA ARCserve Backup\Base\Task\Common
```

コマンドラインにジョブ ID のみを表示する方法

- `JobEngineGetJobID` の値を 1 として定義します。
- タスク マネージャおよびコマンドラインに `CARUNJOB.exe` とジョブ ID を表示する方法 (`carunjob_<ジョブ ID>.exe`)
- `JobEngineRenameApp` の値を 1 として定義します。

テープメディアに対するアクティビティ ログのレポート

- Arcserve Backup の拡張により、アクティビティ ログに表示される情報として、テープ名およびテープシリアル番号がアラートメッセージに記述されます。

Agent for Microsoft SharePoint Server に対するアクティビティ ログのレポート

- Arcserve Backup の拡張により、アクティビティ ログに表示される情報として、[ドキュメント レベル リストアを有効にする] オプションがバックアップジョブに対して指定されたかどうかを示されます。[ドキュメント レベル リストアを有効にする] オプションは、[Agent for Microsoft SharePoint のバックアップ オプション] ダイアログ ボックスで指定します。

リストア マネージャからファイルへのデータのエクスポート

- Arcserve Backup の拡張により、リストア マネージャの [ツリー単位] および [セッション単位] で表示されるファイル、フォルダ、セッションのリストをエクスポートできるようになりました。

データ デデュプリケーションデバイスのマージ

- Arcserve Backup の拡張により、コマンド `ca_devmgr` を `-regenerate` 引数と共に使用してセッションをリセット (クリーンアップ) した場合にデータ デデュプリケーションデバイスからセッションをマージできるようになりました。

Alert マネージャのセキュリティ

- Arcserve Backup の拡張により、Alert マネージャで `CheyAlert$` ネットワーク共有が作成されなくなり、セキュリティ侵害の危険性が減少しました。

Windows x64 オペレーティング システム上で実行されるサーバからのトラブルチケットの印刷

- Arcserve Backup Alert マネージャの拡張により、Windows x64 オペレーティング システム上の Arcserve Backup インストールからトラブルチケットを印刷できるようになりました。

AS400 バージョン 7

- Arcserve Backup の拡張により、オペレーティング システム AS400 バージョン 7 および 7.1 のサポートが追加されました。

VHD バックアップのパフォーマンス

- Arcserve Backup の拡張により、VHD バックアップの全体的パフォーマンスが向上しました。親ディスクと関連付けられていない仮想ディスクで仮想マシンをバックアップする場合のパフォーマンスが改善されています。

マイグレーションジョブ

Arcserve Backup の拡張により、マイグレーションジョブに関連する機能が追加されました。

- [マイグレーションジョブ ステータス] ダイアログボックスには、保留中、失敗、およびホールド状態のマイグレーションジョブに関する情報が表示されます。失敗、またはホールド状態のマイグレーションジョブのみを変更できます。
- バックアップ マネージャとアーカイブ マネージャでは、ステージング場所に関連付けられている保留中のマイグレーションジョブを表示できます。この情報にアクセスするには、デデュプリケーショングループ/デバイスおよびディスク ステージンググループ/デバイスの右クリックメニューを使用します。
- マスタジョブが削除された後、ジョブキューでマイグレーションメークアップジョブが削除されなくなりました。ジョブキューでの削除は、メークアップジョブが開始する前のみ実行されます。
- マイグレーションメークアップジョブが削除されても、セッションはパーズされません。保留中のマイグレーションジョブのコピー時間およびパーズ時間は、[マイグレーションジョブ ステータス] ダイアログボックスを使用して変更できます。

Arcserve D2D 統合バックアップ

Arcserve Backup の拡張により、Arcserve D2D サービスが実行されていない場合、Arcserve D2D サーバが利用不可能であれば、以下の条件下で Arcserve D2D 統合バックアップを実行できるようになりました。

- Arcserve D2D を実行しているコンピュータをバックアップ マネージャの Arcserve D2D サーバオブジェクトに追加する場合、以下の条件が存在します。
 - Arcserve D2D サービスの実行中に、Arcserve D2D ノードの少なくとも 1 つのフルバックアップが正常に完了した。
 - Arcserve D2D バックアップ デスティネーションが利用可能である。
 - Arcserve D2D のバックアップ デスティネーションがリモート ロケーション上に存在し、リモート ロケーションをホストするコンピュータが利用可能（実行中）である。

注: Arcserve D2D サービスを除き、バックアップを実行するために必要なすべてのサービスが実行されている必要があります。

- Arcserve D2D を実行しているコンピュータを、バックアップ マネージャの Arcserve D2D プロキシ サーバオブジェクトに追加する場合。
 - D2D サービスの実行中に、Arcserve D2D サーバの少なくとも 1 つのフルバックアップがプロキシサーバを介して正常に完了した。
 - Arcserve D2D バックアップ デスティネーションが利用可能である。
 - D2D のバックアップ デスティネーションがリモート ロケーション上に存在し、リモート ロケーションマシンが利用可能（実行中）である。
 - プロキシサーバを介して D2D ノードをバックアップするときに、プロキシサーバは実行されているが、D2D サービスまたは D2D サーバが実行されていない。

注: リモート ロケーションに対するログイン認証情報を変更した場合、D2D 統合バックアップ ジョブが次回実行されるときに D2D サービスが実行されている必要があります。

Tapecopy ユーティリティ

- **tapecopy** ユーティリティが拡張され、ARCserve データベースから照会したセッションをフィルタできるようになりました。この機能を使用すると、ソーステープに対する制限をより細かく指定できます。たとえば、**tapecopy** は **-s** (ソースグループ)、**-t** (ソーステープ名)、**-ids** (ソースランダム ID)、および **-zs** (ソーステープシーケンス番号) を照会できるようになりました。旧リリースでは、**tapecopy** ユーティリティはこれらの引数に指定された値を無視し、ジョブを即座に停止しました。以下の構文は、この機能を使用する方法を示します。

```
tapecopy -d PGRP0 -idr -m TAPECOPY2 -q0n0rAfter 12/10/16 14:00 -s pgrp2  
-q0n0rAfter 12/10/16 14:00 "-s pgrp2
```

データ デデュプリケーション

- **Arcserve Backup** データ デデュプリケーションが拡張され、ARCserve データベースからデータ デデュプリケーションセッションを削除した直後に、データ デデュプリケーションデバイスのディスク容量を解放できるようになりました。旧リリースでは、データベースからセッションを削除しても、データ デデュプリケーションデバイスからデータが削除されませんでした。
- **ca_devmgr** ユーティリティが拡張され (**-startreclaim** 引数を指定した場合)、ページポリシー条件が満たされた直後にデータ デデュプリケーションデバイスのディスク容量を解放できるようになりました。旧リリースでは、ページポリシー基準が満たされてからディスク容量が解放されるまで 6 時間の待機時間が存在しました。

Microsoft SQL Server AlwaysOn 可用性グループ (AAG)

- **Arcserve Backup** は、プライマリおよびセカンダリ レプリカ サーバに存在し、AlwaysOn 可用性グループ (AAG) の一部である Microsoft SQL Server データベースのバックアップおよびリストアをサポートするようになりました。

r16.5 Update 2

以下のセクションでは、r16.5 Update 2 リリースに追加された新機能および強化機能について説明します。

r16.5 Update 2 の機能

以下のセクションでは、r16.5 Update 2 リリースに追加された新機能について説明します。

注: すべての機能および拡張機能が正しく動作するためには、Arcserve Backup および VM Agent プロキシサーバを Update 2 にアップグレードする必要があります。

VMware 用のエージェントレス バックアップ

このリリースでは、ファイル レベル リストアが有効な raw (フル VM) バックアップを実行する場合、VMware システムの仮想マシンにエージェントをインストールする必要がなくなりました。ただし、リストアを実行するときにはエージェントがインストールされている必要があります。

注: r16.5 では、混在モードバックアップで増分バックアップを実行する方法として、VM にインストールされているエージェントを使用する方法と、プロキシサーバ上で VDDK を使用する方法の 2 つがあります。Update 2 リリースでは、エージェントを VM にインストールする必要はありません。そのため、混在モードバックアップで増分バックアップを実行するために選択できるオプションは、プロキシサーバ上で VDDK を使用する方法のみです。

VMware 仮想マシンのトランスポートモード

このリリースでは、Agent for Virtual Machines のバックアップ モードの種類を選択するときに、新しい [VMware VM のトランスポートモード] オプションを選択できるようになりました。この新機能は、仮想マシンのバックアップおよび復旧用の [グローバル オプション] ダイアログ ボックスに表示されます。

注: この機能は、VMware システムのみに適用されます。

変更ブロックのトラッキング (CBT) の自動リセット

このリリースでは、変更ブロックのトラッキング機能を手動でリセットする必要がなくなりました。CBT は、問題が発生したときに自動的にリセットできるようになりました。

注: この機能は、VMware システムのみに適用されます。

r16.5 Update 2 の拡張機能

以下のセクションでは、r16.5 Update 2 リリースに実装された拡張機能について説明します。

VMware VDDK 5.1.1 のサポート

Arcserve Backup では、VMware VDDK 5.1.1 をインストールして、VMware ベースの仮想マシンをバックアップすることができます。ベストプラクティスとして、ご使用のバックアップ環境に VDDK 5.1.1 をインストールすることをお勧めします。

この機能を有効にするには、バックアッププロキシシステムの以下のレジストリキーの VDDKDirectory 値を変更します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ARCServe  
Backup\ClientAgent\Parameters
```

値を VDDK がインストールされた新しいディレクトリの場所に置き換えます。例：

```
C:\Program Files (x86)\VMware\VMware Virtual Disk Development Kit
```

以下の点に注意してください。

- VMware VDDK 5.1.1 を x64 ベースのコンピュータにインストールすると、同じディレクトリに VDDK64.zip ファイルが配置されます。このファイルを VDDK がインストールされているのと同じ場所に解凍して、VDDK64 フォルダにファイルを抽出してください。
- VDDK 5.1.1 を実装できるのは、Arcserve Backup Agent for Virtual Machines r16.5、r16.5 Update 1、または r16.5 Update 2 がインストールされているバックアッププロキシシステム サーバです。

r16.5 Update 3

以下のセクションでは、r16.5 Update 3 リリースに追加された新機能および強化機能について説明します。

r16.5 Update 3 の機能

以下のセクションでは、**r16.5 Update 3** リリースに追加された新機能について説明します。

注: すべての機能および拡張機能が正しく動作するためには、**Arcserve Backup** および **VM Agent** プロキシサーバを **Update 2** リリースにアップグレードする必要があります。

Microsoft Exchange Server 2013 のドキュメントレベル バックアップのサポート

Arcserve Backup Agent for Microsoft Exchange Server では、データベース レベルおよびドキュメント レベルのバックアップとリストアが可能です。

ドキュメント レベルのバックアップとリストアを使用して、以下の操作を実行できます。

- Microsoft Exchange Server 2013 メールボックスおよびパブリック フォルダのフォルダ レベルバックアップ。
- Microsoft Exchange Server 2013 メールボックスおよびパブリック フォルダのメッセージ レベル リストア。
- ドキュメント レベルバックアップでは、バックアップ中に高度なフィルタリングを使用でき、高度な設定オプションも用意されています。
- さらに、メッセージング シングル インスタンス ストレージやマルチスレッドをサポートし、最小単位のリストアを可能にすることで、最大限のパフォーマンスと柔軟性を引き出します。
- 監査、マイグレーション、廃棄、エージングといった多くの管理タスクを簡素化できます。
- 電子メール メッセージ、投稿、予定表、連絡先、タスク、メモ、履歴項目など、複数のメッセージ オブジェクトをバックアップできます。
- Microsoft Exchange Server 2013 パブリック フォルダに導入されたアーキテクチャの変更に基づき、Arcserve Backup マネージャのユーザー インターフェイスで、ドキュメント レベルのバックアップおよびリストア ビューが変更されました。詳細については、「Agent for Microsoft Exchange Server ユーザ ガイド」を参照してください。

注: Arcserve Backup Agent for Microsoft Exchange をインストールする前に、以下の Microsoft Web サイトから最新の MAPI-CDO パッケージ (6.5.8320.0) をダウンロードおよびインストールする必要があります：

<http://www.microsoft.com/en-in/download/details.aspx?id=39045>

Pervasive SQL VSS Writer のサポート

このリリースでは、Client Agent for Windows の使用時にバックアップおよびリストアを実行する Pervasive SQL VSS Writer がサポートされています。

r16.5 SP1

以下のセクションでは、**r16.5 SP1** リリースに追加された新機能および強化機能について説明します。

r16.5 SP1 の機能

以下のセクションでは、**r16.5 SP1** リリースに追加された新機能について説明します。

ディスク ステージング デバイスおよびデデュプリケーション ステージング デバイスのダブル テープ コピー

Arcserve Backup は、このリリースでダブル テープ コピーを導入します。この機能は、ディスク ステージング デバイスおよびデデュプリケーション ステージング デバイスから 2 つのデスティネーション/メディアにデータを同時にマイグレートするための新しい方法です。ステージングの場所が、ディスク（ステージング対応）またはデデュプリケーション デバイスであれば、デスティネーションとして、テープ、ディスク、デデュプリケーション デバイスを使用できます。この方式は、マイグレーション ジョブを実行する際に時間の節約に役立ち、**tapecopy** を不要にします。

テープへの Arcserve UDP 復旧ポイントのマイグレートのサポート

このリリースで、Arcserve Backup r16.5 SP1 にアップグレードすると、RPS データ ストア（もしくはローカルまたは共有ディスク/ドライブ）からテープに復旧ポイントをマイグレートできるようになります。

Windows オペレーティング システムに対する Agent for Microsoft Exchange Server 2013 のサポート

Arcserve Backup Agent for Microsoft Exchange Server 2013 用の [r16.5 機能](#) (P. 10) に加えて、このリリースには、以下の Windows オペレーティング システムのサポートが含まれるようになりました。

- Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard Edition（Exchange Server 2013 SP1 以降に対してのみ）
- Microsoft Windows Server 2012 R2 Datacenter Edition（Exchange Server 2013 SP1 以降に対してのみ）

r16.5 SP1 の拡張機能

以下のセクションでは、**r16.5 SP1** リリースで拡張された機能について説明します。

VMware Servers 5.5 バージョンのサポート

このリリースから、Arcserve Backup は以下の VMware サーバで実行される仮想マシンのディスカバリの実行しおよび保護ができるようになりました。

- vSphere ESXi 5.5 and 5.5 Update 1
- vSphere vCenter 5.5 and 5.5 Update 1
- VDDK 5.5 Update 1

SATA デバイスのサポート

Arcserve Backup は、このリリースから、SATA デバイス/ディスク/CD/DVD ROM を備える仮想マシンのバックアップおよび復旧をサポートするようになります。

GPT および UEFI ディスクのサポート

このリリースから、Arcserve Backup は、VMware VDDK 5.5 Update 1 のサポートで、システムディスクとして GPT（GUID パーティションテーブル）および UEFI ディスクの仮想マシンバックアップをサポートするようになりました。

r16.5 SP1 の更新

以下のセクションでは、**r16.5 SP1** リリースに追加された新機能および強化機能について説明します。

セキュアブート対応システムの惨事復旧に対するサポート

このリリースで、Arcserve Backup に、Secure Boot Enabled System の惨事復旧用の Windows アセスメントデプロイメントキット (ADK) 8.1 をサポートするパッチが含まれるようになりました。

セキュアブートは、UEFI ファームウェアの新バージョンで導入された機能です。コンピュータの製造元は OS ブートローダが純正かどうか、またはブートキットのロードを妨げないかを確認することができます。

Arcserve Backup の惨事復旧オプションは、以下のセキュアブート対応 Windows オペレーティングシステムの復旧をサポートします。

- Windows 8.1
- Windows Server 2012 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012

惨事復旧の制限事項

以下のリストは、Secure Boot Enabled System の惨事復旧に関して、Arcserve Backup のこのリリースに存在することが確認されている制限事項です。

- WinPE の既知の制限により、Windows ADK 8 を使用して作成された WinPE DR ISO イメージでマシンを再起動する場合、キーボード機能が使用不能になる場合があります。回避策としては、Windows ADK 8.1 を使用して WinPE DR イメージを作成します。

惨事復旧パッチの適用方法

このパッチは、WinPE DR イメージが作成される Arcserve Backup サーバにのみ適用されます。このパッチに加えて、Windows アセスメント デプロイメント キット (ADK) 8 または 8.1 が WinPE DR イメージが作成されるサーバにインストールされる必要があります。

注: このパッチでは、r16.5 SP1 惨事復旧オプションの Arcserve Backup リリースおよび RO70938 の累積パッチがインストールされる必要があります。

惨事復旧パッチを適用するには、以下の手順に従います。

1. RO75130.exe を起動し、インストールを完了します。
2. マシンに Windows ADK 8 または 8.1 がインストールされていることを確認します。
3. ブートキット ウィザードを実行して、新しい WinPE DR イメージを作成します。
4. [WinPE DR イメージをカスタマイズする] を選択して、WinPE DR イメージの作成を完了します。
5. この WinPE イメージを使用して、惨事復旧を実行します。

含まれているテスト修正

このリリースには、セキュア ブート対応システムの惨事復旧の更新用の次のテスト修正が含まれます。このセクションに記載されていない修正がある場合は、テクニカル サポートまでお問い合わせください。

- **T36A862** - このテスト修正は、ADK を 8.0 から 8.1 にアップグレード後に、WinPE DR イメージを作成できないという問題を解決します。
- **T5Y4018** - このテスト修正は、WinPE DR の作成でドライバアイテムがオフになっているかどうか確認されないという問題を酒精します。

Arcserve UDP Update 2 との Arcserve Backup の統合

このリリースで、Arcserve UDP ノードのテープ バックアップのパフォーマンスが向上しました。

R075131 に含まれているテスト修正

Arcserve Backup には、Arcserve UDP Update 2 リリース用の以下のテスト修正が含まれるようになりました。

注: Arcserve Backup r16.5 SP1 + R075131 を Arcserve UDP Update 2 と共に使用することをお勧めします。

R075131 に含まれているテスト修正

- T245892 - 複数のファイルをフィルタリングする場合に、バックアップの遅延が発生します。
- T245923 - raw セッションのリストアに失敗します。
- T4C4122 - Arcserve D2D 軽量統合バックアップ用の設定可能な一時パス。
- T55Z059 - RPS サーバの展開時に、ユニバーサル エージェントがクラッシュする。
- T55Z064 - RPS サーバの参照中に、ユニバーサル エージェントがクラッシュする。
- T55Z065 - エージェントで Arcserve UDP 軽量統合バックアップがクラッシュする。
- T55Z066 - エージェント上でクラッシュした raw セッション ジョブのリストア。
- T55Z069 - 軽量統合バックアップ データの破損。
- T56P019 - RPS サーバへのログインに失敗する。
- T56P024 - VHD 仮想マシンをバックアップする際に、エージェントがクラッシュする。
- T56P022 - Arcserve UDP 仮想マシンのリストアが失敗する。
- T5OV087 - クラッシュ ダンプの無効化、またはダンプ ロケーションの設定。

Linux Client Agent に対する RHEL7 および SELinux のサポート

このリリースで、Arcserve Backup には以下をサポートするためのパッチが含まれました。

- Red Hat Enterprise Linux (RHEL7 および RHEL6) をクライアント エージェントとして認定し、SELinux と、RHEL 7 の新しいファイル システム XFS に対するサポートが追加されました。

注: SELinux については、RHEL7 マシンには `libattr-2.4.46-12.el7.i686` パッケージを、RHEL6 には `libattr-2.4.44-12.el7.i686` パッケージを必ずインストールしてください。

RHEL7 の制限事項

以下のリストでは、Arcserve Backup for Red Hat Enterprise Linux 7 (RHEL7) の本リリースに存在する既知の制限事項について説明します。

- Red Hat Enterprise Linux 7 (RHEL7) で表明されているのは「商業上合理的なサポート」のみであるため、Btrfs のサポートは追加されません。
- XFS では、同じマシン上に同じ UUID を持つ 2 つのボリュームのマウントは許可されません。XFS ボリューム (たとえば、`/dev/sdb`) の raw レベルバックアップを実行し、いくつかの理由で同じマシンの別のパス (`/dev/sdc`) にボリュームが復旧する場合、復旧は成功します。ただし、マウントは失敗します。この問題を解決するには、以下のコマンドを使用します。

コマンド: `mount -o nouuid /dev/sdc /mountpoint`

注: この問題は、raw パーティションを同じサーバ上の別のパスに復旧しようとし、実際のソース ボリュームがまだそのマシンにマウントされている場合にのみ発生します。

- ネイティブの 4K セクタ ハード ドライブはサポートされていません。

RHEL7 および RHEL6 をサポートするパッチを適用する方法

Red Hat Enterprise Linux 7

Red Hat Enterprise Linux 7 (RHEL7) への Linux クライアント エージェントのインストールを進めるためにインストール スクリプトが修正されるので、以下の手順が必要です。

1. 以下のように一時ディレクトリにテスト修正ファイルをコピーして展開します。
 - `mkdir /tmp/RO75449`; 提供された tar ファイルをこのパスにコピーします。
 - `cd /tmp/RO75449`;
 - `tar -zxvf RO75449.tar.Z`
2. インストール スクリプトを置き換えるには、以下の手順を実行します。
 - a. Arcserve Backup r16.5 SP1 メディアをマウントします - `mount /dev/cdrom /mnt`
 - b. `mkdir /tmpfolder`
 - c. `cp -r /mnt/DataMoverandAgent/* /tmpfolder`
 - d. `cd /tmpfolder/Linux`
 - e. `rm install`
 - f. `cp /tmp/RO75449/install /tmpfolder/Linux`
 - g. `chmod +x install`

エージェントのインストールに進み、インストールが完了したら、以下の手順を実行します。

1. Arcserve Backup Linux クライアント エージェントをシャットダウンします : `uagent stop`。
2. 以下の修正ファイルをコピーします。
 - `cp /tmp/RO75449/fs.cntl /opt/CA/ABuagent/fs.cntl`
 - `cp /tmp/RO75449/caagent_autostrstop /opt/CA/ABcmagt/`
`caagent_autostrstop` がコピーされたら、自動起動用の次のコマンドを実行します。
 - `cd /opt/CA/ABcmagt`
 - `./caagent_autostrstop` - プロンプトが表示されたら、[Yes] を選択します。

- `cp /tmp/RO75449/uagentd /opt/CA/ABuagent/`
uagentd がコピーされたら、次のコマンドを実行して、uagentd バイナリへの十分な権限を付与します。
 - `chmod +x uagentd`

3. Arcserve Backup Linux クライアント エージェントを起動します：
`uagent start`。

Red Hat Enterprise Linux 6

Red Hat Enterprise Linux 6 (RHEL6) では、以下の手順が必要です。

1. 以下のように一時ディレクトリにテスト修正ファイルをコピーして展開します。
 - `mkdir /tmp/RO75449`; 提供された tar ファイルをこのパスにコピーします。
 - `cd /tmp/RO75449`;
 - `tar -zxvf RO75449.tar.Z`

エージェントのインストールに進み、インストールが完了したら、以下の手順を実行します。

1. Arcserve Backup Linux クライアント エージェントをシャットダウンします：`uagent stop`。
2. 以下の修正ファイルをコピーします。
 - `cp /tmp/RO75449/fs.cnt1 /opt/CA/ABuagent/fs.cnt1`
 - `cp /tmp/RO75449/uagentd /opt/CA/ABuagent/`
uagentd がコピーされたら、次のコマンドを実行して、uagentd バイナリへの十分な権限を付与します。
 - `chmod +x uagentd`
3. Arcserve Backup Linux クライアント エージェントを起動します：
`uagent start`。

含まれているテスト修正

このリリースには、Red Hat Enterprise Linux の更新用の次のテスト修正が含まれます。このセクションに記載されていない修正がある場合は、テクニカルサポートまでお問い合わせください。

- **T5DQ145** - このテスト修正は、以下の条件が満たされる場合に各フォルダに対して "User supplied Regular Expression Disable" というメッセージが表示される問題を修正します。
 - `lost + found` フォルダを除外するために、フィルタが設定されている。
 - `CA_ENV_DEBUG_LEVEL` が 2 を超えている。

この修正では、ジョブが開始すると、"User supplied Regular Expression Disabled" メッセージが記録されます。

- **T5DQ156** - このテスト修正は、バックアップの後に NSS でファイルアクセス時間が変更される場所の問題を解決します。この修正はフォルダには適用されません。

Hyper-V 用のゲスト クラスタ CSV サポート

このリリースでは、Arcserve Backup に Hyper-V サーバで CSV を使用してゲスト クラスタをサポートするためのパッチが含まれています。

CSV は ISCSI LUN または物理 LUN の場合があります。バックアップが実行中の際、クラスタ ノードのバックアップは CSV LUN をスキップします。CSV データをバックアップするには、クライアント エージェント バックアップを個別に実行します。

EMC Isilon NAS デバイスのサポート

このリリースで、Arcserve Backup には EMC Isilon NAS デバイスをサポートするためのパッチが含められました。

R077102 に含まれているテキスト修正

このパッチに含まれているテスト修正：

- **T51H126** - この修正では、NAS Option での ONTAP 8.2 の NetAPP クラスタ対応バックアップのサポートが追加されます。

制限事項

このパッチでは制限事項の存在が判明していません。Arcserve Backup では EMC Isilon NAS デバイスに対するリストア ビューでのフォルダ/ファイルレベルの参照はサポートされていません。ただし、Arcserve Backup 開発チームはこの問題の解決に取り組んでいます。

Windows 版 Oracle 12c のサポート

このリリースで、Arcserve Backup には Windows 版 Oracle 12c をサポートするためのパッチ R078056 が含まれました。

制限事項

このパッチに既知の制限事項があるため、Arcserve Backup はコンテナ データベース (CDB) およびプラグブルデータベース (PDB) の保護をサポートしていません。

第 2 章: r16.5 でサポートされない機能

以下のセクションで説明されている機能は、現時点の Arcserve Backup r16.5 ではサポートされていません。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[廃止されたシステムおよびプラットフォームのサポート \(P. 33\)](#)

[VMware Consolidated Backup \(VCB\) のサポートの停止 \(P. 33\)](#)

[WinPE 惨事復旧イメージ \(P. 34\)](#)

[r16.5 SP1 : eTrust Threat Management Agent 8.1 のサポートの廃止 \(P. 34\)](#)

廃止されたシステムおよびプラットフォームのサポート

Arcserve Backup for Windows r16.5 では、以下のシステムおよびプラットフォームのサポートが含まれなくなりました。

- Itanium ベースのシステム
- Tru64 5.1b
- Debian バージョン 4
- ARCserve 12/12.1 エージェント (後方互換のため)
- Mac OS 10.5x

これらの変更は、すべての Arcserve Backup r16.5 エージェントおよびオプションに影響します。

VMware Consolidated Backup (VCB) のサポートの停止

Arcserve Backup for Windows r16.5 では、VMware Consolidated Backups (VCB) のサポートが停止されました。

これらの変更は、すべての Arcserve Backup r16.5 エージェントおよびオプションに影響します。

WinPE 惨事復旧イメージ

このリリースで、WinPE (Windows Preinstallation Environment) 惨事復旧 CD は、Arcserve Backup インストール DVD に含まれなくなりました。WinPE 惨事復旧 CD は今後手動で作成する必要があります。

インストール中、Arcserve Backup では、Windows 8 用の Windows アセスメント & デプロイメントキット (Windows ADK)、および、Windows 7 用の Windows 自動インストールキット (AIK) を Microsoft Web サイトからダウンロードするリンクが提供されます。Windows ADK または AIK がインストールされたら、以下のオペレーティングシステムを実行するコンピュータを惨事復旧するための Windows WinPE 惨事復旧イメージを作成できます。

- Windows Server 2003
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2008 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012

r16.5 SP1: eTrust Threat Management Agent 8.1 のサポートの廃止

Windows r16.5 SP1 用の Arcserve Backup には eTrust Threat Management Agent 8.1 コンポーネントは含まれなくなります。r16.5 SP1 をインストールするとき、指定されたコンポーネントはインストールされなくなります。以前のリリースを r16.5 SP1 にアップグレードすると、既存の eTrust Threat Management Agent 8.1 は削除されます。その結果、「ウイルス」スキャングローバル オプションはどのジョブでも使用できなくなります。

この変更はすべての Arcserve Backup r16.5 SP1 エージェントおよびオプションに該当します。